

ロベルト・ベンガルティ著「デザイン・ドリブン・イノベーション」同友館、2012年7月10日刊を読む

「誰もが皆、各々の眠れる意味、個人文化をもっている。

呼び起されるまで、それを探し求めるだけなのだ。

手を取って眠れる資質を発掘するのに協力すること。

つらいときには、自分の本質を信じるように導くこと。

これは、人が他人に与えられる一番尊い贈り物である。」

12 ページ

「イタリアの初等・中等教育では、文化を企業家の個性に不可欠なものとして定着させるような人文科学系の科目にひときわ力がそそがれている」

4 ページ

<コメント>

今年、2015年最後の書き抜き読書ノートです。本書は「デザインとはモノやサービスの意味を創出することである。製品やサービスが持つ意味のイノベーションを実現した企業だけが市場優位に立つ」という考えに基づく「デザイン・ドリブン・イノベーション」の基本文献。

文化の基礎は小学校6年間、中学高校6年間の初等・中等教育で人文系教科で築き上げるイタリアの教育は日本でこそ充実したい。

— 2015年12月31日 林 明夫記 —